ど６つの視点で紹介します。模型・映像・レプリカ等を駆使した展示とともに、「縄文土器パズル」「ふいご体験」等体験型・参加型装置も充実しており、五感を通して奥津軽の歴史が学習できます。

開館時間9:00～16:45（最終入館16:15）／休館日　月曜日・毎月第4木曜日（館内整理日）、祝日、年末年始（12/28～1/4）／観覧料　一般200円、高校・学生100円、小・中学生50円／TEL0173-69-1111（中泊町総合文化センター）

中里八幡宮 10

祭神誉田別命。創建年代は不詳ですが、天正7年（1579）再建され、中里・深郷田・宮野沢三ヶ村の産土神となったとされます。元来袴腰岳山頂に鎮座していたものが、現白旗神社に遷座し、さらに現在地に遷ったとする伝承があります。

深郷田遺跡 12

宮野沢川左岸、深郷田集落全域に広がる縄文貝塚。昭和14年（1939）白崎高保によって初めて発掘調査が行われました。出土土器中、内面に貝殻条痕が見られる縄文前期の土器は「深郷田式土器」と命名され、北日本の代表的な縄文土器「円筒土器」の源流として位置づけられました。その後も松平義人、成田末五郎・佐藤達夫・渡辺兼庸・佐藤仁ほかが発掘調査を行い、縄文前期～晩期、平安時代の遺構・遺物が発見されています。

猿賀神社・船絵馬 13

岩木川下流部沿岸、天台宗般若寺境内にある神社。明治初年神仏分離により般若寺より独立、猿賀神社となりました。江戸後期から明治にかけて奉納された船絵馬88枚が残されています。

尾別館 1　五林館 7　深郷田館 11

津軽山地西麓に立地する古代防御性集落・中世城館群。空壕跡などの施設が認められることから、従来中世城館と考えられてきましたが、平安時代の土師器・須恵器、北海道起源の擦文土器などが出土していることから、成立は平安時代の「防御性集落」に遡ります。14世紀後半～15世紀前半の陶磁器も出土していることから、安藤・南部氏の抗争が激化する室町時代前期、臨時的な城館として再利用されたと考えられます。

弘誓寺如来坐像 2

天台宗弘誓寺（廃寺）本尊。室町時代ころの製作年代が推定されており、元々、尾別川上流不動の滝上にあった寺院「解脱庵」本尊と伝えられます。弘誓寺には、享保15年（1730）銘のある解脱庵双盤、宝暦4年（1754）銘のある解脱庵梵鐘も伝わっていることから、近世における解脱庵の存在は確実ですが、不動の滝付近からは、かつて茶臼も発見されていることから、同庵の創建は中世に遡る可能性もあります。

弘誓寺観音堂 3

津軽三十三観音14番札所。本尊千手観音。慶安3年（1650）創建、近世後期には飛竜大権現を祀る飛竜宮となりましたが、明治6年（1873）神仏分離令により神明宮を分立し、飛竜宮は廃社となりましたが、明治43年（1910）再興されました。

薄市山弘法寺 4

日蓮宗寺院。本尊十界曼陀羅。慶長10年（1605）法立寺（弘前）7世実成院日光が薄市村（中泊町中里）に薄市山実成寺開山、延宝元年（1673）法立寺13世妙静院日禅が中里村に移転するとともに現寺号に改称したと伝えられます。

中里城遺跡（中里城跡史跡公園） 5

中里中心部背後の丘陵に立地する平安時代の防御性集落・中世城館。発掘調査により、全長約130m空壕・全長約85mの柵列に囲まれた平安時代の防御性集落が発見されました。中世には、臨時的な城館として再利用されたとみられ、室町時代前期の陶磁器や茶臼なども出土しています。平成9年（1987）古代防御性集落を復元した中里城跡史跡公園がオープン。展望台からは、眼下に展開する中里の町並みはもちろん、津軽平野に浮かぶ岩木山や岩木川などが望見されます。平成15年(2003)県史跡に指定されました。

東松山真勝寺 6

真宗大谷派寺院。本尊阿弥陀如来。寛文5年（1665）越前国誓願が中里村（中泊町中里）に開基。正徳3年（1713）現山寺号を公称と伝えられますが、正徳4年説もあります。

五林神社五輪塔／宝篋印塔 8

源義経の従者大導寺力の妻オリを祀る神社。御神体となっている五輪塔と宝篋印塔は、中世の墓碑あるいは供養塔で、鎌倉時代から室町時代前期にかけて造られたと推定されています。また、五林神社西側の水田から、かつて蔵骨器と推定される鎌倉期の珠洲焼壺が出土していることから、大導寺力・オリが伝説に過ぎないとしても、中世の五林には、珠洲焼壺に納骨され、五輪塔が建立されるような豪族が存在していた可能性が考えられます。

中泊町博物館 9

文化ホール・図書館とともに、総合文化センター「パルナス」として、平成10年（1998）開館。津軽半島の歴史を、時期別の５ゾーンに分け、「まつりと心」「交流と交錯」な

富野山般若寺 14

天台宗寺院。本尊阿弥陀如来。元禄11年（1698）広須・俵元・金木三新田の祈願所として、考弁が富野野村（中泊町中里）に開基と伝えられます。天明3年（1783）本道が中興、文化4年（1807）覚範が深沙大権現を勧請、文政8年（1825）深沙大権現の分霊遷座により猿賀神宮寺末寺となりました。明治初年神仏分離令により猿賀神社を分離しました。

■般若寺イチョウ

かつては、般若寺本堂を囲んで、イチョウ・ケヤキ・マツの三樹が生長を競っていましたが、マツは明治34年（1901）頃、ケヤキは昭和59年（1984）伐採され、現在残されているのはイチョウの木のみとなります。これらの三樹については、金木新田の開発に伴って岩木川の治水工事を行った弘前藩四代藩主津信政が、工事の完成を記念して自ら植えたとする伝承が残されています。

大沢内溜池 15

津軽山地西麓にある溜池。面積37.3ha・有効貯水量151万6000■・灌漑面積298ha。溜池築造の時期については、「大澤内村へ新溜池築立之儀共今後五六年を期し成就候様被仰付候（『津軽信政公事績』宝永3年（1706）10月条）」、「大沢内溜池の樋切組人夫六八四人」（『御国日記』正徳6年（1716）3月29日条）などの記事から、宝永3年溜池築造が計画され、正徳6年頃に完成したとも考えられます。